

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570100731		
法人名	株式会社トランスポート		
事業所名	洛和グループホーム石山寺 1階		
所在地	大津市平津1-17-32		
自己評価作成日	平成29年11月30日	評価結果市町村受理日	平成30年4月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/25/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2570100731-00&PrefCd=25&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成30年1月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームに入居しても、自宅で行っていたように家庭菜園を、中庭のほうで行っておられます。自立で行える方であり、必要に応じお手伝いを行っております。利用者様が培ってきたことを出来る限り行えるようにサポートしております。
ご希望に沿って必要な物を一緒に出かけ、買い物を行っております。
他にも、ご飯作りや洗濯物といった一般家事を一緒に行ってもらい、自宅での暮らしにより近づけるようにケアしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「元気で挨拶 明るい笑顔」と謳う事業所理念を目標として掲げ、理念を意識しながら日々の支援に努めています。夏祭りや敬老会をはじめ認知症カフェへの参加、中学生への認知症サポーター養成講座や職業体験の受け入れ、ボランティア等様々な積み重ねられた地域との繋がりがも継続しています。家族との良好な関係を築き、来訪時や運営推進会議などで得られた意見や要望は事業所の改善課題として検討し利用者の体重管理の意見を受けてラジオ体操等の運動の機会を増やすなどの取り組みを行い、また春秋の外出行事では家族からも協力を得られ利用者と共に外出行事を楽しんでもらっています。職員は日々の生活の中で利用者の思いを聞き取り、好みの物を食べに行く外食やコンサート等、利用者の思いに添い行きたい所に出かける個別外出に繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「元気で挨拶、明るい笑顔」を理念に掲げ、職員、利用者共に挨拶を笑顔で行っている。	挨拶と笑顔をキーワードとする理念は開設後に作成され、法人の理念と共にリビングに掲示しています。時々カンファレンスなどで理念について考える機会があり職員間で確認し合い継承されています。また理念に対するチェック項目を基に職員間で検討する機会もあり、元気で明るい笑顔を意識した支援につなげています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の民生委員や地域包括と運営推進会議を通じて、情報交換を行い地域の催しごとに参加させていただいている。7月には職員が地域の防災会議に参加。9月には敬老会へ利用者に参加している。	自治会に加入し回覧板が届き、夏祭りをはじめ認知症カフェや敬老会などに利用者が参加しています。手品やフラダンス、コンサートなど定期的な来訪があり、利用者の楽しみとなっています。また中学生の福祉体験の受け入れも行っており、事前に中学生に向けたサポーター講習会を実施しています。近くにある通学路では中学生に声掛けをするなどの交流の機会もあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生を対象とした認知症サポーター講座・福祉体験を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では民生意委員・地域包括・家族と参加してもらい、行事や事故報告等を行いホームでの出来事を報告している。(2月に1回)	運営推進会議は、民生委員や地域包括支援センター職員、家族などの参加を得て隔月に開催されています。民生委員の提案から認知症カフェへの参加に繋がったり、利用者の介護度や職員数の現状を知りたいなどの意見を受けて毎月発行されている「たより」の中に質問に答える項目を作るなど、出された意見を反映するようにしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	民生委員より情報をもらい、避難経路や会議等の開催を伝達してもらっている。運営推進会議にてホームでの出来事を報告している。	連絡事項の伝達などは運営推進会議に出席を得ている市職員でもある地域包括支援センター職員を通じて行われています。また必要な情報のやり取りは法人担当者が行い、研修案内については適任者の参加に繋がっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リビング入口にセンサー設置し離脱防止を行っている。他にも1名赤外線センサー、1名ナースコールを使用し対応している状況。歩行・移乗に付き添いが必要であり、ご家族にも説明し同意書にサインをもらい実施している。	研修計画に沿って身体拘束について研修が行われ、参加職員は報告書の提出と共に伝達研修で他の職員に伝えています。安全に付き添うために夜間のみ使用しているセンサーについては家族にも相談し、月々の会議で必要性を検討しています。夜間以外玄関は開放されており、各フロアははじめ庭への出入りも自由で外に出かけたい利用者には寄り添ったり、併設施設の職員の協力も得ながら見守っています。	

洛和グループホーム石山寺(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回グループ内研修に参加し伝達を行っている。今年度は人員も不足していた為、資料の回覧にて伝達研修を行う。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用されている方がいるが、職員による制度の理解は薄いと思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には、入居相談センターの相談員と、管理者またはフロアーリーダーが契約時に説明を行い、必要に応じて同意書を記入している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族要望からの意見があった際に運営推進会議にて報告を行い、どのような対応をしていくかを報告している。	家族の面会時や外出行事、運営推進会議などで意見を聞いています。法人による満足度調査が毎年行われ、意見等あれば改善課題として検討され、建物への要望は今期の事業所の移転に繋がった経緯もあり運営に反映しています。また体重管理や身体を動かしたいとの要望を受けて、体操や出来る方は階段上りなどを楽しみながら始めたり、日々の外出の機会作りに繋がっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を聞き、必要に応じ改善に努めている。 大津事業所会議にて、法人内の連絡事項等話しあっています。	フロアー会議で職員は意見を出し合い、欠席職員には事前に意見を聞いています。物品購入の申請などは職員間で必要性を検討したり、事業所内で解決できない場合などは法人に上げ検討しています。また職員に対しても法人によるアンケート調査があり意見を出せる機会になっており、個人面談などでも希望や個人的な悩みなどにも対応するようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員不足による時間延長が続いていた時期があった。偏らないよう配慮していたが、疲労も見られていた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	5月～11月現在まで人員不足が続いており、研修にあまり参加出来ていない。伝達研修にて資料の回覧を行い各自学んだ事を実践している現状である。 法人内にて年間計画、また事業所内では個別の計画を立て、実行しています。		

洛和グループホーム石山寺(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大津事業所会議にて、法人内の他施設と連絡を取り合っています。 他法人との連携はは直接はぼないです。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談センターの職員が事前調整しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談センターの職員が相談を受けてます。また、事業所見学の際は、事業所職員が要望等お聞きしたりしてます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に至るまで、相談、見学、面接、判定等、ようような視点で検討してます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とコミュニケーションを図り、出来ることは協力を仰ぎ実施してもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族対応による外出援助など、利用者と家族との関係が途切れず、よい関係が築けているところもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	ご家族だけでなく、ご友人の面会もあっている。	親戚や友人の来訪時には、希望を聞き居室などでゆっくり寛ろいでもらっています。また孫やひ孫に会いに実家に行ったり、自営業の方は時々店に戻って昔なじみの方と会うなどの支援をしています。また親戚の集まる正月には自宅に戻る方もおり、家族の協力も得ながら支援しています。年賀状のやり取りなども継続できるよう葉書の購入や投函を支援しています。	

洛和グループホーム石山寺(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	顔見知りの方もおられ、良い関係が出来ている反面、気が合わない方もおられ、できる限りトラブルにならない様に距離を置いたりしてトラブル防止している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても、ご相談やその後の報告(ご逝去等)をさせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時になかなか伝えられない方もおられるので、記録を遡り言動を把握し望む暮らしに近づけるように検討している。	入居に当たっては法人の担当者と共に管理者が自宅や入居施設、病院などで面談を行い、これまでの生活や好み、暮らし方の希望等を聞きアセスメントシートにまとめています。また入居後は日々の関わりから得た利用者のつぶやきなどの言葉や家族からの情報なども含めて職員間で意見の収集を図り、「私の気持ちシート」に記録し利用者の思いの把握につなげています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴から望まれている暮らしに近づけるようにアセスメントを行い、できる限りのことは続けられるように務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の持てる力を維持出来る様に、プランに盛り組み、できることを続けてもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント時にご家族へ近況を再度お伝えし、ご本人が暮らしていく中で必要なケアを提案、相談を行い作成している。	介護計画はアセスメントの基、希望記入シートを用いて事前に確認した利用者や家族の意向、医師や看護師の意見、月々のカンファレンスで収集した職員の声を反映し作成しています。入居当初は3ヶ月で見直し、その後は6ヶ月毎に計画作成者が職員の意見をまとめてモニタリングを行い、状態に変化のない場合は1年毎に計画を更新しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録へ記入し、工夫点はその都度職員間で話し合い出来てる。しかし、プラン内容を記載していても#記入漏れが見られる事がある。		

洛和グループホーム石山寺(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療との連携にて、訪問マッサージを導入している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	往診医や訪問看護・訪問マッサージを導入している。他にも周辺のスーパーに買物に出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回の往診。他にも体調に変化見られた際にかかりつけ医へ相談し、家族希望の医療機関へ受診をしている。	入居時に今迄の掛かりつけ医の継続が可能であることを伝えてあります。事業所の協力医は24時間の対応が可能で、月2回の往診や随時の往診もあり、全員が協力医に変更しています。専門医への受診は家族が行い日々の様子を伝える為に職員が同行する場合もあり、家族と情報を共有しています。また必要に応じて月2回の訪問歯科や口腔ケア、訪問マッサージを受けることもできます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護にて健康チェックを実施。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は医療機関の地域連携課と密に電話連絡し、状態を報告してもらっている。退院時はムンテラを実施。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針を話し、契約をしております。 看取り対応は現在該当者がなく、入院・退去がほとんどである。重度化にてホームでの看取り希望時はかかりつけ医・訪問看護・ご家族・職員とでカンファレンス実施予定である。	入居時に看取り指針にそって説明し、重篤な状態になった場合は医師から家族に改めて説明が行われ、常時医療行為が必要でない場合は出来るだけ家族の意向に沿うように支援しています。家族には何時でも連絡が取れる状況にしたり面会を増やしてもらうなどの話し合いを行い、医師や看護師に様々なアドバイスをもらいながら支援に取り組んでいます。職員には毎年看取りに関する研修が行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルを設置。対応の訓練実施できていない。		

洛和グループホーム石山寺(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1回の消防機具の点検に加え、年2回消防署による火災時避難訓練実施。	2ヶ月に1度訓練が行われ、年2回は消防署の立ち合いを得た訓練を行っています。訓練では昼夜を想定し、通報や初期消火、設備点検や緊急時連絡網の確認、利用者全員の避難誘導などを行っています。訓練の際は近隣の方々に利用者と共に挨拶に回っています。また地域とは近隣の火災時に被災者を受け入れたこともあり協力関係を築いています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の性格を把握し、その方らしい生活が送れるように務めている。	職員は研修計画に沿って接遇やマナー研修を受講しています。事業所としては丁寧な声掛けを基本とし、場面や状況に合った対応を心がけ、利用者の自尊心やプライドを損ねないよう配慮しています。同性介助への意思表示がある場合は利用者の意向に沿った支援になるよう努めています。職員の不適切な言動があれば管理者やリーダーが中心に注意をするようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スピーチロックを使わずに、開いた言葉掛けをするように心がけている。(利用者が意思決定出来るように)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り希望に沿って対応しているが、人員の問題で外出できなかった事もある。その時は利用者と相談し、日時を決め、後日振り返り対応を行う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定が出来る方には服装を選んでもらっているが、出来ない方には職員が準備し対応している状況である。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みもバラバラであり、食べれない方については代用品とし違う物を提供している。下ごしらえや後片付けも進んで手伝ってくださる。	献立は利用者により好みを聴いたり選べるように提案しながら、重複しないように決めています。利用者は野菜切りや皮むき、配膳など出来る事に力を発揮しています。おせち料理に始まり、鏡開きや七草粥など季節毎にイベント食を作ったり、出前や弁当を持って行く外出や春と秋には家族と一緒に食事を楽しむ機会を設けています。また個別の夕食なども取り入れ食を楽しめるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	検食簿を確認しメニューが重ならないように注意している。		

洛和グループホーム石山寺(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回歯科往診あり、その都度申し送りにて注意点を報告してもらい、実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ使用は減らず。排泄パターンを理解し出来る限り自立で行えるようなケアに務めている。	トイレでの排泄を基本とし、利用者の訴えやサインなどの様子を見ながらトイレ誘導を行っています。退院後の不安定時には、利用者の思いを汲みポータブルトイレの使用で安心に繋げ、様子を見ながら改善に向けて支援をしています。また、普段は布の下着を着用している方も外出時などは紙パンツを使用してもらい不安なく外出できるよう支援するなど体調や状況に合わせた支援を行い現状維持に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事での改善は難しく、お薬にて予防に務めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴したい方がおられるので、希望に沿ってほぼ毎日行っている。	入浴は午後から毎日希望を聞きながら支援し、利用者毎に湯を入れ替え概ね週3回は入れるよう支援をしています。季節の柚子湯や入浴剤の使用やこだわりの石鹸などを使用している方もおり入浴を楽しめるよう配慮をしています。拒否傾向にある方は信頼関係を築くことを大切に心掛け、職員の交代や対応を工夫しながら入浴に繋げています。時間外の希望があればできる限り添えるよう検討する予定としています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時の体の向きによってめまいがする方もいるので、ベッドの位置を変更し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬内容の把握は出来ている職員とできない職員とまちまちであるが、処方箋保管ファイルを設置し確認が出来る環境を作っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に合わせ、歌・ことわざ・しりとり、新聞・園芸など、行ってもらっています。また2ヶ月に1回のボランティアによる、フラダンスや笛演奏、手品を見学してもらっている。		

洛和グループホーム石山寺(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望に沿って買い物に出かけている。その他の方は出来る限りホーム周辺の散歩へ出かけるようにしている。	日々の散歩は近くにある蓮池の周辺や近隣の寺等を散歩したり、認知症カフェなどの地域の行事にも出かけています。春と秋等出かけやすい季節を選んで行う外出行事は家族にも声をかけ一緒に出かけたり、ドライブなどに行っています。また希望を聞きながら営んでいた店を訪ねるなどの個別外出にも力を入れています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をもたれている方おられ、金銭管理はご自分で行ってもらっている。買物時にご自分で支払いをされる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には対応を行っている。携帯電話を持っている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生け花をされる利用者がおられ、免許皆伝を持っておられるので、生けてもらいリビングに飾っている。	玄関や共用空間には利用者が活けた花や観葉植物などがあり、随所に椅子やソファを設置し利用者が自由に寛げるようにしています。四季折々の行事の写真や個別外出時の写真などを掲示することで利用者の思い出話などに繋がっています。日々の換気や空調は利用者の声も聴きながら調節し、時には利用者にもモップ掛けなどに携わってもらいながら掃除し居心地の良い共用空間作りを心掛けています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでゆっくり一人で休める環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	模様替え時はご家族、本人と相談を行い、安全に過ごしやすい環境作りに勤めている。	入居時には馴染みの家具等を持ってきてもらうように声を掛け、籐のテーブルや椅子、ドレッサー等を持ち込み家族と相談しながら安全な移動なども考慮し配置しています。習字や刺しゅうなど趣味で作った作品を飾ったり、大正琴を置いている方もおり、今までの暮らしへの思いに通じるよう飾りつけがなされ、安心できる居室作りに配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	畑作業や、家事手伝いなど出来る事が出来る様に支援している。洗濯物も出来る方はセッティングだけ行い見守りながら操作してもらっている。		